

1泊2日で行った東京方面大学見学会の1日目。笹川平和財団の方々から日本国内で起こっている出来事から国際規模で起こっていること、様々な分野に渡って詳しくお話を伺うことが出来ました。その中でも私が1番印象に残ったのは、「日本人はもっとズルがしく生きることが必要だ」と言われたことです。今まで私は人に嘘をつくことは絶対にしてはいけないと教えられてきていたので、その言葉がもつ破壊力は私にとってとても大きいものでした。しかし、後からその言葉の意味をよく考えてみると、アメリカやロシア、中国などの世界的な影響力が強い国と日本が対等に外交などを行っていくうえで、バカ正直な言葉ばかり並べていたのでは到底太刀打ちできないのかもしれないな、と感じました。

その後の笹川平和財団で働いている人のお話では、前川さんにまずお話を伺いました。笹川平和財団では平和についてと海洋についての取り組みを主に行っており、その中で前川さんは「海洋をどのようにして守るか」を研究テーマに働いているとのことでした。現在地球上で認識されている生物では陸は約150万種、海では約20万種となっており、陸と海の比率は3対7と圧倒的に海の方が広いのにも関わらず、人間はその海の生物のことをあまり知らないという現実を教えていただきました。

また、前川さんが海洋について研究したいと思ったのは、高校生のときだったと聞き、現在高校生である私たちも将来の仕事について今から真剣に考えていかなければならないのだな、と改めて考えさせられました。

次にお話を伺ったのは、ごく最近まで中国で商品開発を行っている方でした。

中国で商品開発を行っていて、痛感したことは「日本がどれだけ食生活が豊かであるか」だそうです。「中国では食生活が豊かな所はもちろんありますが、それはごく一部に過ぎないのであって中国全土ではありません。その一方で日本では全国どこでも豊かだから、やはり日本はすばらしい。」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。私たちは1日3食が当たり前で、だからこそ、たまに食べ物のありがたみを忘れてしまうことがあります。でも、世界的な視野で物事を見ることによって感謝する心を思い出すことができるので、広い視野を持つことを忘れないで1日1日を過ごしていけたらいいな、と改めて思いました。

私が笹川平和財団の方々のお話を聞いて思ったことがあります。それは、みなさん必ず「英語は大切だ」と口を揃えて言ったことです。私たちは学校でも、これからの社会で生きていくためには英語は必要不可欠なものだ、ということは何回も言われてきました。しかし、今まではまいち、ぴんときていませんでした。しかし、今回の笹川平和財団の、実際に海外で多くの経験をされてきた方々のお話を聞いて、英語の必要性を強く感じることができました。

午後の企業・大学訪問では一橋大学におじゃまさせていただきました。私は一橋大学の経済学部を第一志望としているので、今回の訪問は目指している大学の雰囲気も同時に知ることができ、自分のモチベーションも自然と上がったので、とても有意義なものになりました。

私たちがお話を伺ったのは経済学研究所の北村行伸教授でした。教授がこのような経済学を専門とする職に就いたきっかけは「誰も気にも留めないような世界の細かいところを研究してみたい」という思いからでした。その言葉通り教授はあまり知られてはいないけれど、物価連動債という国民の生活に関わるシステムを考案し、政府に提案しました。それは現在使われており、経済学者のなかでは良いシステムだ、と好評価を得ているそうです。しかし、国民は年金基金や生

命保険などの国債を利用するため、思うように物価連動債が売れないそうです。

教授への質問の時間に私は最近の話題にもなったイギリスの EU 離脱について、世界へ与えた影響を伺いました。すると、イギリスは EU に残りたいというひが多いと睨んで、国民投票を行った。しかし、結果は EU 離脱派が多くなってしまい、予想していたものと結果が違っていたため、2・3日は為替が揺れた。だが、キャメロン首相がすぐに政権交代し、組閣からの流れがスムーズにいったので、世界が大混乱せずすんだ。とのことでした。しかし、現在はやはり EU に残った方が得なのではないかという意見が多くなってきており、400万人の請願者を募り、国民投票のやり直しを図っているそうです。また、若者は EU に加盟していた方がパスポートの手続きなどが不要なため、比較的自由に留学ができ、とても便利なので残留派だったが、60歳以上の人々が EU に加盟していなかったときの方がよかったのではないかと感じて、EU 離脱派になっていたということも教えていただきました。

また、0~3歳までのケアが大切だということも教えていただきました。0~3歳までは脳の細胞分裂が盛んな時期で、脳が人生で1番発達するのだそうです。さらに、3~10歳には身体的基礎的なものや感情的な面も大きく発達するため、たくさん刺激を与えてあげるととても良いとのことでした。それと関連して最近では母子家庭が守られていないのではないかということが問題として取り上げられているそうです。母子家庭であるがゆえに母親が朝から晩まで働いていることができず、結局、非正規労働者にならざるをえない状況に陥り、年収は約130万程度の貧しい生活を強いられるそうです。

また、母親が赤ちゃんとほとんど接する機会がないため、0~3歳までの間にたくさん与えてあげると良いとされる刺激を十分に与えることができず、その子どもの脳が発達せず、成長しても、頭があまり良くなく、その結果良い職に就けず、貧しい生活にまた戻る、といった負の連鎖が続いてしまうことが問題となっています。私はそのような子どもの境遇に立って考えてみたことがないので、今までこのような幸せな人生を送らせてもらっていることに感謝しなければならないな、と感じました。

OB・OGとの懇談会では、3人の文系の方にお話を伺うことができました。その話の中で、私が最も驚いたことは、どの先輩方も塾に行ったことがない、と言っていたことです。私からしたら、そのようなことは考えられませんが、やはり東大に行くような先輩は自分を分析した上で、自分の勉強方法がしっかりと確立されているのだな、と感じ、私も見習わなければならないなと思いました。また、効率の良い勉強方法も教えていただきました。それは、問題集を解くときなどに、「2週目からがほんとうの勉強」であるとのことでした。問題集の1週目を解き終わって、マルやバツがついて、勉強をした気になっているけれども、それはほんとうの勉強ではなくて、問題を解いて、間違えたところが完全にマルになるまで繰り返しやるのが自分の身に1番なる、ということも教えていただきました。また、英語はなによりも大切で、英語を短時間で点数を上げるためには、「音読」が1番良い方法だ、ということや経済学部への進学を目指すのならば、数学の微分・積分を完全に習得することが必要だ、ということも教えていただきました。部活と勉強の両立はどうしたらいいのですか。という質問に対しては、毎日15分でもいいから、机に向かって勉強する習慣をつけることがよいのではないかと、ということでした。これまで私は、部活が終わって帰宅すると、疲れてすぐに寝てしまい、勉強がおろそかになってしまいがちだったので、今回聞いた話を参考に時間の使い方を見直し、志望校合格へ向けて新たなスタートを切りたいと思います。